



卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第48期生の皆さん、口腔生命福祉学科第11期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日でたくご卒業される皆さんに、歯学部教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、今日の日を一日千秋の思いで待ち焦がれていたご家族、保護者の皆様方のご尽力にも敬意を表するとともに、お喜び申し上げます。

卒業生の皆さんは、新潟大学歯学部の教育課程をすべて修了し、学士の称号を与えられて、この春から、歯科臨床研修医、歯科衛生士、福祉職、行政職、大学院への進学等、さまざまな道に進まれます。各人の進む道は異なるものの、歯科医学・医療、口腔保健・福祉に携わり、国民の健康の維持・増進に寄与するという皆さんの目標は同一であると思います。

新潟大学歯学部設置時に比べ、現在の歯科界を取り巻く状況は大きく変わりました。歯学部設置当時(1965年)は歯科医師不足とむし歯の洪水で、地域歯科医療に貢献できる人材養成が急務でした。現在、我が国は超高齢社会を迎え、平成25(2013)年にはそれぞれ80.50歳、86.83歳(高齢化率は25.1% [男性22.1%、女性27.8%])となり、平成72年(2060)年には39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上になるとの推計が出されています。今までの歯科医療も健常者型から高齢者型へ大きく転換することが求められていますが、「口腔や食べるといったQOLの向上の観点から、すべての人の健康と質の高い生活を実現する」という歯科医療が目指すところには変わりはありません。このような中、平成28年度には、文部科学省では歯学教育モデル・コア・カリキュラム、厚生労働省

では歯科医師国家試験出題基準の改訂が行われました。

かつて、「人生50年」という言葉がありました。この「人生50年」とは幸若舞いの「敦盛」の中の一節で、織田信長が桶狭間の戦いの出陣前に謡いながら舞ったことで有名な一節ですが、現在では「人生100年」がキーワードになってきています。100歳以上の人をセンテナリアン (centenarian) と呼びますが、日本では現在60,000人を超え、その数は短期間のうちに急増することが予想され、2007年生まれの半分以上が107歳以上生きるとされています。このため、政府は「人生100年時代構想会議」を立ち上げ、人生100年時代(百寿社会)を見据えた経済・社会システムを実現するための政策のグランドデザインに係る検討を開始しました。2017年のビジネス書グランプリを獲得したリンダ グラットン、アンドリュー スコットの著作「Life Shift ~100年時代の人生戦略」では、これまでの教育(22歳まで)、仕事(65歳まで)、老後(84歳まで)の3ステージが、これからは教育(22歳まで)、マルチステージ(80歳まで)、老後(100歳まで)のとなり、このマルチステージを生きるにはお金以外の無形の資産が必要で、その中に、活力資産(健康)が必要になってくると述べられています。

超高齢社会の中、国は歯学に対し、健康長寿社会実現への貢献、医療イノベーションの創出、国際的な医療課題の解決を期待しています。しかし、社会は口腔医療・保健・福祉のプロフェッショナルとなる皆さんに対して、常に幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感を求め続けます。

また、社会は専門的知識やスキルを維持・向上させる責任も求めるため、皆さんにはさらに一層の常日頃の精進が不可欠となります。皆さんが社会から認められるためには、今日この日に、改めてこれからの長い人生に向けて新たな目標を設定しましょう。歯科医療・口腔保健従事者という職業を真摯に受けとめながら、プロとしての自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指してください。そして、新潟大学歯学部を卒業したという自負をもって、社会のリーダーとして活躍することを期待いたします。「優れたリーダーとは、優秀は才能によって人々を率いて行くだけの人間だけではない。率いられていく人々に、自分たちがいなくては、と思わせることに成功した人である」（塩野七生：ローマ人の物語 第Ⅱ巻 ハンニバル戦記）とされています。

是非、変革が進む歯科界のリーダーとして活躍して下さい。

本日、新たな夢を胸にスタートラインに立つ皆さんを、我々教職員一同はこれからも熱意を持って、応援していきたいと思えます。卒業する皆さんには、折を見て母校を訪ね、また生涯の学習の場として、これからも新潟大学歯学部を積極的に活用していただけるように願っています。皆さんが今日巣立っていく新潟大学歯学部は競争が激化している歯科界の中で、高い評価を受けています。すばらしい教育資源を有しています。我々教職員は皆さんに対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持ち、活躍して下さい。皆さんの今後の活躍を大いに期待してします。





歯学部卒業おめでとう

医歯学総合病院 副病院長 小林 正 治 (歯科担当)

歯学科第48期生ならびに口腔生命福祉学科第11期生の皆さん、卒業誠におめでとうございます。歯学部での課程をすべて修了され、晴れて学士の学位を授与されました。これまでの努力とその成果を讃えますとともに、光り輝く未来に対して心から祝福を申し上げます。また、ここに至るまでの長い年月、皆さんの勉学を支えてこられたご家族の皆様方のご労苦に対し、敬意と感謝の意を表します。

皆さんは、厳しい受験戦争を勝ち抜いて本学に入学した時のことを覚えていますでしょうか。その時、自分の将来に対して皆さんはどんな夢を抱いていたでしょうか。その夢は、大学生活で得た知識や経験で変わったのでしょうか。そして、皆さんがこれから歩いていこうとされる道は、その夢とどう繋がっているのでしょうか。皆さんは今、新たな人生のステージに向かってスタートの場に立ち、緊張感に包まれていることと思います。10年後20年後に、自分自身がどうありたいかをイメージしてください。そうなるために、何をしなければならないかを考えてください。思うようにいかないのも人生ではありますが、自分で自分の人生を設計することも重要です。

歯学科では、これからの歯学界をリードする人材を育成することを目的として様々な教育を行ってきましたが、医療の進歩は日進月歩です。皆さんがこれまでに得た知識や技術はあくまでも歯科

医師としての基礎であります。歯科医師として大きく育つためには、皆さん自身で基礎の上は何を積み重ねていくかが勝負となります。また、口腔生命福祉学科では、高度な歯科専門知識を有しつつ、保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメントできる人材の養成を目的として教育を行ってきました。皆さんはこれから歯科衛生士あるいは社会福祉士として医療や社会福祉の現場に立つこととなります。地域包括ケア体制の構築が急務となるなかで、皆さんには広い視野と豊富な知識や高いスキルがますます求められており、プロフェッショナルとして多職種の緊密な連携による口腔機能の維持向上を実現していくことが期待されています。

皆さんがこれから船出をする海は決して平穏なものではなく、まさに荒海です。歯科医療の対象は健常者から高齢者・有病者へと多様化が進み、歯科医療のIT化も加速しています。皆さんが自分自身で素晴らしい未来を切り開くためにも、明確な目標を設定し、広い視野を持って、知的好奇心を失うことなく、忍耐強く考え続ける力を基に、一歩一歩努力を重ねていただきたいと思います。

新潟大学歯学部ならびに医歯学総合病院歯科診療部門は、これから様々な分野で活躍する皆さんを全面的に支援します。また、卒業される皆さんも母校を末永く支援して下さいますよう心より願っています。

卒業にあたり

歯学科6年 善本 佑

歯学部編入して、気がつけば4年が経ちました。

あれだけ1日1日が長く感じた臨床実習や国家試験の勉強も、終わってみれば全てがあっという間の出来事でした。

思い起こせば、一度は編入試験に不合格だった自分が、補欠要員として入学させてもらい、こうして卒業にあたって寄稿する文章に頭を悩ませることができるのも、新潟大学歯学部との浅からぬ縁があったのだと感じずにはいられません。ただ、本当に自分が幸運だったのは、単にモラトリアムが延長されたことでなく、この4年間を編入生の同期や48期生と共に過ごすことができたことでした。

3年生の解剖実習に始まり、テスト勉強やポリクリ、そして臨床実習に至るまで、一人で出来ることは何一つありませんでした。特に、臨床実習では、一人一人が自分の診療やレポートに追われる中で、しっかりとクラス全体でお互いを支え合い、共に励ましあうことで終了を迎えることがで

きました。

新潟大学では、臨床実習において、学生が実際の診療を通して技術や知識を得ることや、患者さんとのコミュニケーション能力を育む機会が他のどの大学よりも豊富にあることは間違いありません。そして、それを可能にしている要因の一つが、お互いをフォローしあえる仲間だったのだということに改めて感じます。

これから歯科医師としてのスタートを切るにあたって、実習の時とは比べものにならないほどの責任感と喜びを感じています。その上で、より様々な職種の方との連携の上で、患者さんやその家族に貢献することが求められていくことと思います。辛くなったり、壁に当たったりすることも何度となくあるでしょう。その度に、この4年間が困難を乗り越える心の支えになることと信じて、今の気持ちを忘れず日々スキルアップしていけるよう努力していきたいと思います。

最後に、部活動の先輩や後輩。丁寧な指導をしていただいた先生方。臨床実習で協力していただいた患者さん。物心両面で支えてくれた家族。ここでは書ききれないほどの多くの方に支えられて卒業を迎えることができました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。



卒業にあたり

歯学科6年 熊田 茉彩

この歯学部ニュースの原稿を執筆するにあたり、自分の6年間を振り返り、何を書こうかと向き合うこと数十分。一番印象に残っているのは数々の実習なのですが、それについて書くと少々ネガティブな文章になってしまうと思うので、6年間の試験勉強の思い出について書きたいと思います。

1年生では教養科目ばかりでしたが、2年生からは旭町キャンパスに移り、専門的な科目を主に勉強していくことになりました。頑張らなければという気持ちが強く、思えば、初めての専門科目の試験前である2年生の夏休みは大学受験の夏休みよりも勉強していたと思います。しかし夏休み後、しばらく謎の頭痛と発熱に悩まされたのです。おかしいと思いながらもそのまま解剖のテストを受けましたが、その後病院で髄膜炎と診断され、入院することになったのは苦い思い出です。

そうしてコツコツと座学から実習までなんとかクリアし、いよいよ国家試験。私は国家試験の勉強

はずっと自宅でした。私にとって最も集中できる環境は自宅でしたし、時間をかけて大学に行くのも効率が悪いと感じたからです。しかし自宅だとどうしても勉強時間など日によってムラがあるので、大学の近くにいるなら、大学に行き決まった時間に勉強し、周囲の友人といろいろな話し合った方がいいのだろうなとは思っています。結局は人によって環境もやり方も性格も違うので、いかに自分が集中できる環境を見つけ、勉強を続けられるかということが大事なのだと思います。また一人で勉強しているため不安になるときもありましたが、私の場合、家族との会話や愛猫、愛犬によるアニマルセラピーで精神を保っていました。ペットの写真であれ友人との会話であれ、不安になったり、集中が途切れたりしたときの気分転換がなにかあることは長い試験勉強生活においてとても重要な事だと痛感しました。

最後に6年間関わってくださった先生方、様々なご心配やご迷惑をおかけしましたが、ご指導いただけたおかげでこうして無事卒業をすることができました。本当にありがとうございました。今後は6年間歯学部で学んだことを生かして、立派な歯科医師になれるように頑張っていきたいと思っています。



卒業にあたり

歯学科6年 山中 秀敏

入学した当初は長いと思っていた6年間も無事終わり、卒業を迎える今ほっとしたような寂しいような気持ちです。振り返ってみると様々な事があった6年間ですが、その中でも特に印象に残っている部活動と5年生10月からの臨床実習の事について記したいと思います。

一つ目は自分が所属していた弓道部についてです。部活では弓道はもちろんの事、試合後には他大学の人や新潟大学の他学科の人達と交流する事も多く、大学生らしい思い出をたくさん作ることが出来ました。また6年間を通して多くの人と関わる事で多様な価値観を知ることができ、今の自分を形作るものとして非常に価値ある経験が出来たように思います。先輩後輩、OB・OGの先生方との繋がりもでき、自分にとって大きな財産となりました。卒業後もこれらの繋がりを大事にしていければいいなと思っています。一方で楽しい事ばかりともいきませんでした。他人への共感、周囲への気配り等、「人の振り見て我が振り直せ」といった感じでお互いを高めつつ、人として成長する上で様々な事を経験出来たと思うのでこの経験を社会に出てからも活かしていければと思います。

二つ目は臨床実習についてです。臨床実習で経験出来たことは非常に多く、先生方には歯科治療に関する事から、患者さんに対する配慮、歯科医師としての心構えなど多くの事を教えて頂きまし

た。自分は不器用な部類だったのですが、それでも患者さんは優しく協力して下さい、先生方には見捨てず見守って頂き、時にはアドバイスを下さり、それに少しでも応えようと自分も最後まで頑張ってもらえました。最後に患者さんに「ずっとあなたに診てもらいたいわ」と笑って言われた時には感動とある種の達成感で胸がいっぱいになりました。この時に頑張ってきて良かったなと思えたと同時に、将来目指したい歯科医師像が初めて浮かんだような気がしました。

あっという間の6年間でしたが多くの人に出会い、支えられ、刺激をもらいとても充実した学生生活を送ることが出来ました。こんな自分に根気強く関わって下さった先生方や先輩後輩、周りの友人には感謝してもしきれません。今後は新潟大学歯学部で学んだ事を活かして、しっかり患者さんと向き合っていける歯科医師になれるよう精進していきたいと思っています。本当にありがとうございました。



卒業生の言葉

口腔生命福祉学科4年 高橋小雪

4年前の入学式。新しく始まる大学生活へ様々な期待をしながらも不安でいっぱいだったことを今でもよく覚えています。「卒業なんてまだ先の話」と思っていた私ですが、あっという間に4年が過ぎ、もう卒業を迎えようとしています。

大学生活を振り返ってみると、特に印象に残っているのは4年生の臨床実習です。「口腔は学年が上がるにつれてどんどん忙しくなる」という言葉をよく耳にしましたが本当にその通りで、臨床実習が始まってからの毎日は「実習に行く診療科の業務について予習し、実習に出て、学んだことを整理して次の日の実習に備える」ことの繰り返しで、他のことになかなか手が回らないほど忙しい日々が続きました。実習では思うように動けずに悩むこともたくさんありましたが、その分できなかったことができるようになった時の達成感は大きく、やりがいを感じました。

また、私は歯学部弓道部に所属していました。最初は「何か新しいことにチャレンジしたい」という動機だけで入部をした弓道部。大学生になる前は文化部を貫いてきた私にとって、日々の練習や大会、合宿のすべてが新鮮なものでした。正直な所、現役部員として過ごした2年半の間で、胸

を張って自慢できるような成績を多く残すことはできませんでした。デンタルでは体調を崩し多くの方に迷惑をかけました。自分の不甲斐なさに何度も悩みました。それでもやめずに続けて来られたのは、それ以上に弓道部の一員として過ごす時間がとても楽しく、そして先輩、同期、後輩の皆に支えられていたからだと思います。おかげで私はとても充実した時間を過ごすことができました。

最後になりますが、今まで関わってきた多くの方の支えのおかげで、今の私があります。皆さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これから社会に出ていくにあたり不安は沢山ありますが、頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。



著者：左

卒業生の言葉

口腔生命福祉学科4年 小川 遥 香

「この学科は学年が上がるほど忙しくなる。」入学早々こんな言葉を聞き、4年間自分はちゃんとやっていけるのか不安になったのを今でもはっきり覚えています。実際、4年間で振り返ってみて確かにそうだったなと実感しています。1番忙しかった4年次は、3日間のオリエンテーションを経て始まった病院実習、それと同時進行で始まった特論、その合間に福祉実習をし、就活をし、12月になってやっと全てから解放されたと思ったら、社会福祉士と歯科衛生士の国家試験へ向けて受験勉強が始まり、とてもめまぐるしい一年でした。

しかし、私がこのハードなカリキュラムを乗り越えることができたのは部活があったおかげだと思っています。私は歯学部バドミントン部に所属していますが、私は部活が大好きなことで、4年次のデンタルに出ることをダブルスのペアと約束していたので、私は部活に行こうという強い気持ちがありました。そのおかげで辛い病院実習や特論を乗り越えることができ、私の大学生活はとても充実したものになりました。

先ほど病院実習は辛かったと書きましたが、実際に臨床現場にでることで、いかに自分が未熟であるかを思い知ったことや、患者さん相手に診療

補助やPMTGをやらせていただけたことは私にとって大変よい経験になりました。病院実習ではたくさんの先生や歯科衛生士の皆さんにご指導していただきましたが、その中で、私はある歯科衛生士さんと出会い強い憧れを抱くようになりました。その方は、いつも明るく笑顔で周りの人まで笑顔にしてしまうような人柄ですが、いざという時にはとても頼りになる存在です。歯科衛生士としてまだまだ未熟な私ですが、4年間大学で学んだ知識と経験を生かし、私もその歯科衛生士さんのようになれるよう努力していきたいと思いません。

最後に、お世話になった先生方、口腔生命福祉学科のみんな、歯学部バドミントン部の皆さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



著者：右